

平成28年12月20日(火)
午後3時30分
大会議室(さんくす3番館4階)

吹田市総合教育会議

次第

1 吹田の学校教育現場の支援について

2 その他

配付資料

資料1 学校教育現場を支援するための解決策(案)

参考 吹田の教育に関する分析

学校教育現場を支援するための解決策(案)

カテゴリー	SWOT分析意見	教員の所感	考えられる解決策(案)
弱み 脅威	・過大校と小規模校が混在し、学校規模の差が大きい ・各小学校区の人口構成・施設等が異なることによる地域での活動内容の格差	学校の規模によって雰囲気や負担感はそれぞれだと思うが、どちらにもメリット・デメリットがあるので、一概にどちらが良いとは言えない。	①学校規模によって生ずる違いを学校間格差としてとらえず、メリットとしていかす学校運営に努める。 ②学校規模が大きいところに、より多く学校配分予算を増加する。 ③特色ある取組をしようとする学校に、校長裁量予算をつける。 ④小規模を生かし、小中連携、小小連携を一層推進する。
強み	・課外クラブ・部活動が盛ん	部活動のための勤務時間外の業務について、仕事と家庭の板挟みになるなど、負担に感じている教員がいるのもわかる。一方で、部活動が子どもの生きがいや居場所となっているのも事実であり、地域や子どもとの関わりの機会ともなっているため、部活動の必要性は強く感じている。長く続けていくためには複数顧問や休息日の徹底などが有効であると考えている。地域の人材活用については、子どもたちの成長のためには有意義だと思うが、教員の負担軽減につながるとは考えにくい。	⑤全市一斉のノー部活デーを設ける。 ⑥学校が主体となる部活動を廃止し地域によるスポーツ活動や文化活動として位置づけ、学校は活動に施設の目的外使用を認める。活動を支援したい教員は校長の許可を得て、活動に参加することを認められるものとする。
強み 弱み	・課外クラブ・部活動が盛ん ・教職員の負担増	学校の夏休み期間中が休暇を取る数少ない機会だが、普段できない研究会に参加したり、授業の研究をしたり、部活動の顧問をしていると試合や練習があって、なかなか難しい。	⑦夏季休業中の研究会や研修を期間を集中して開催する。また、課外クラブ・部活動を実施する期間を設ける。
弱み	・小中学校における管理職候補者の不足 ・ベテラン教職員の大量退職 ・経験の浅い教職員の占める割合が大きい ・教員の世代交代による技術の継承の難しさ ・教員の年齢層がアンバランス ・教職員の負担増 ・教頭に業務が集中 ・教員用PCの不足	ベテラン教員がいる間に機会をとらえて質問し、その経験等を若い世代に継承できるようにしていくことが重要。	⑧学校ごとにできればいいが、できない場合には、若手教員がベテラン教員に聞きたいことを質問票にして市教委に提出。市教委は質問をとりまとめ、ベテラン教員に回答表を送付、ベテラン教員は回答表を記入して市教委に提出。市教委は質問と回答をQAにして一覧を作成し、校務なびのライブラリに掲載し、いつでも情報を閲覧できるようにする。ベテラン教員の抽出が課題。
		若い教員ばかりなので、独り立ちするやいなや、学校運営に携わっていかねばならず、キャリアのサイクルの短さが多忙感を生んでいるように感じる。	⑨退職教員を指導教員として市独自に採用し、若い教員の割合の多い学校のサポートにあたらせる。 ⑩各室課における校務に関わる事務をマニュアル化、フロー化し、ライブラリに常時掲載する。
		教員の業務では無さそうなことは、教頭にまず全ておいてくる。教員と事務職の業務をこれから明確化されていけば、少しは事務量が見直されるのでは、と思う。	⑪教頭及び事務職員(学校事務)の協力を得て、教頭と事務職の業務を明確化し、事務職員の業務一覧を作成するとともに事務職員向けの研修、指導連絡会を実施。 ⑫市費の事務職員の事務の明確化。
		学校現場の教員の半数以上を20代～30代の若手が占め、学校運営の中核もほぼ30代が担うこととなり、多くの教員が慣れない仕事に追われながら、自身が学ぶ時間を確保せねばならず、時間が足りないことに加え、事務処理や情報処理をするためのパソコンが一人に一台無いため、時間を効率的に使えない。	⑬早急に一人に一台、校務用のパソコンを整備する。
弱み	・教職員の負担増	大学の授業で、指導案を書いたり、模擬授業をしたりより実践的になっているが、実際に教員になって初めて事務処理の多さに驚く。プリントの大量印刷などは事務職員に業務としてお任せすることもできるが、朝の声かけや、見回りなどは、子どもたちの表情を見て心情的なものを察知する機会なので、任せきりにはしたくない。	⑭教育実習や採用試験後の説明会などの機会をとらえて、標準的な教員の一日の業務の流れ等を説明する。 ⑮教員の業務内容を洗い出し、事務的な作業の一部について事務職員の業務とする。 ⑯事務の共同化等、効率化を図る。 ⑰事務職員の市割愛による事務の効率化
弱み	・教職員の負担増	勤務時間中は子どもがいるため、45分の休憩を満足にとることも、自分の仕事ができることもまずないので、朝早く来て仕事をするという傾向にある。以前は持ち帰り残業というのもあったが、個人情報があるので今はそれもできない。忙しい＝辛いとは必ずしも限らず、頑張りを評価してもらえず、「できる人がやればいい」「やって当たり前」と思われることが辛い。	⑱勤務時間の適正化をより進める。 ⑲事務補助(臨時雇用員)の勤務を週3日から週5日に増やす。 ⑳校務支援システムを導入し、教職員の負担を軽減する
弱み	・教職員の負担増	職員会議の他に、研究部会、検討会議、所属の部会、任意の学習会など情報共有や発信のための会議が他市に比べて多い。会議を短く、効率よくするという意識を現場に根付かせる必要がある。	㉑会議の効率化を心がけ、会議の短時間化と会議の簡略化に努める。 ㉒一人一台のパソコンの導入で、情報共有や会議の効率化を図る。 ㉓首席、指導教諭等の指導的立場にある教員向けに「学校運営、会議の持ち方」などの研修を実施する。
弱み	・教職員の負担増	一クラスあたりの子どもの数が減れば、テストの丸つけをするでも、通知簿を書くでも、その分作業量が減るので、事務処理時間も短くなる。そうすれば子ども一人ひとりにかけられる時間が増えるので、子どもへの対応がきめ細やかにできるとなり、クラスが落ち着く環境づくりができ、精神的な負担も減るので、効果は非常に高い。	㉔低学年は30人学級、中・高学年は35人学級にする。 ㉕小学校スタートアップ事業のスターターを増員する。
脅威	・保護者のモラルの低下	保護者のニーズや不満・不安の高まりとともに、保護者対応、緊急対応が増えてきている。その対応のための会議をもたれるも、若い教員が多いため判断や決断が困難に。	㉖業務時間外にかかってきた電話は機械音声での対応とする。 ㉗各学校での保護者対応について市教委で軽重問わず内容を把握し、対応マニュアルを作成する。 ㉘スクールロイヤー制度(※)の導入。 ㉙警察との連携。

(※スクールロイヤー制度:弁護士が学校に対しいじめ防止などの対策のために法的な助言をする▽保護者とのトラブル相談を請け負う▽学校や教委の判断では迷う事案について、法的側面からアプローチし、法令に基づく対応・助言を行う▽学校に出向いて人権教育などを実施することを目的とした制度のこと。)

○吹田の教育に関する分析

吹田の教育の現状を「強み(Strength)」、「弱み(Weakness)」、「機会(Opportunities)」、「脅威(Threats)」の4つのカテゴリーから評価するSWOT分析を用いて、評価しました。

(参考)

		強み(Strength)		弱み(Weakness)	
内部環境 (学校教育)	市固有事項	<p>勉学に関する強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの学力(平均点)が高い 学校の教育研究組織体制の充実 幼小中一貫教育の取組 市独自の副読本の作成 小学校英語教育の充実度合 <p>勉学以外の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした体験活動の場が多い 課外クラブ、部活動がさかん 取組や成果を発表する場が多い <p>水泳に関する強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの泳力が高い 全小学校に小プールが設置 臨海学習の取組 <p>教育環境に関する強み</p> <ul style="list-style-type: none"> SC、教育相談員の派遣による学校支援 SSWの派遣による学校支援 読書活動支援員を各小学校へ1名配置することによる学校図書館の活用機会の増加 	<p>人材に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育が必要な子どもの増加に伴う指導体制 相談業務の人員体制不足 特殊な専門分野に精通した職員の減少 <p>予算に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員用PCの不足 児童用・教室用ICT機器の不足 学校の特別教室の空調設備が未整備 学校等、教育関係施設の老朽化 学校に維持管理や備品教具の更新のための予算の確保が充実していない <p>教育環境に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 過大校と小規模校が混在し、学校規模の差が大きい <p>組織に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館と市立図書館との連絡便が無い 	<p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門性の高い研修を受講したり、自ら最新の情報を収集したりするなどして、継続的に専門性の向上に努める 計画を立て、教育施設・情報教育設備の整備を図る 必要に応じて学校規模・配置の適正化や見直しを検討する 連絡便の整備を図る 	
	全国共通事項	<p>行政との連携に関する強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合教育会議開催による市長事務部局との連携 	<p>人材に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校における管理職候補者の不足 ベテラン教職員の大量退職 経験の浅い教職員の占める割合が大きい 教員の世代交代による技術の継承の難しさ <p>格差に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済力に裏打ちされた学力の格差 運動する子どもとしない子どもの二極化 <p>労働環境に関する弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 病休教員の増加 教職員の負担増 教頭に業務が集中 	<ul style="list-style-type: none"> 学校管理職・指導主事の計画的な任用・育成 若年層からの学校管理職・指導主事の選抜・育成 優秀な学校管理職を確保するための選考・任用制度の改正 体育教科以外で運動をする時間を設ける 地域のスポーツ環境の充実 教員の増員、経験豊富な教員の配置 社会経済的に恵まれない地域に対して、行財政的な支援 校務のICT化の推進 外部指導者の導入促進 教頭の校務に関する業務を補佐する非常勤職員等の登用 労働安全衛生管理体制の整備・充実 	
外部環境	市固有事項	<p>生涯学習にかかわる機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を利用した生涯学習拠点への提供 出前講座などによる学習事業 <p>市民意識にかかわる機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の期待の高さ 地域の人材が豊富 地域との結びつきが強い 市民が参画するイベント・展示等が多数ある 青少年団体の協力・支援 青少年関係団体を核とした地域での活動 <p>専門性を生かしたサービス等の展開にかかわる機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職が多い 専門職による専門相談が可能 職員の専門性を生かしたスポーツ関連事業の展開 <p>大学との連携がもたらす機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内に5大学と大学の数が多く、大学連携がさかん 地域に開かれた大学がある <p>児童育成に関する機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽の広場が全ての小学校にある 留守家庭児童育成室と放課後子ども教室事業の連携 	<p>住環境がもたらす機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園や緑が多い 生活環境が良い 交通の便が良いなど、働きがりが生活しやすい住環境 子育て世代の増加による、こどもの数の増加 <p>施設の充実がもたらす機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年相談の拠点施設がある エキスポシティ(OEV)や、市立吹田スタジアム、「健都」など教育につながる新しい施設の増加 色々な施設が身近にある 自然体験施設の充実 スポーツ施設利用料の改定・体育館・図書館の充実 旧中西家住宅など文化財施設の活用 <p>サービスの充実がもたらす機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢つながり未来館での中高生の居場所提供 青少年に対する多様な自立支援のための相談窓口の設置 公共施設を活用した高齢者の居場所の提供 幅広い世代のニーズに対応した図書館サービスの提供 幅広い図書館サービスの充実 PC・スマホによる図書館情報の提供 図書館ネットワークを利用したあらゆる分野の業務への資料提供 	<p>人口増がもたらす脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模な住宅開発によってもたらされる急激な人口増 短期的には増、長期的には減という現象がもたらす将来的な人口ビジョン策定の難しさ 偏った地域の人口増による教室不足の懸念 <p>地域間格差がもたらす脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 各小学校区の人口構成・施設等が異なることによる地域での活動内容の格差 太陽の広場と地域間の諸条件の違い 図書館未設置地域によるサービスの地域間格差 <p>人材にかかわる脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の指定管理制度によるノウハウの引き継ぎと雇用不安 特殊な専門分野に精通した職員の減少 優秀な人材の他市への流出 <p>施設にかかわる脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時等の公民館の管理運営体制 図書館の業務委託と司書の専門性を発揮する事業展開 博物館の収蔵スペース不足 バリアフリーへの未対応 中央図書館の耐震化 <p>情報発信力の弱さともなう脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館の若年層の利用が少ない 情報発信力が乏しい 	<p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改造等による教室の増室 地域の関係団体や府教委等と連携し、教育格差・学校間格差の対応策を検討 少人数学級、放課後学習支援事業の拡充 教員の増員 自動車文庫の定期的な巡回 公民館・図書館への資料提供 ノウハウの明文化 仕書への記載 適正な待遇の提供 市の魅力をアピール 災害時のマニュアル策定 耐震化・バリアフリー化の促進 新事業の検討 公共施設の利用及び収蔵庫の増設 ターゲットユーザーの明確化 従来の広報媒体の高度化 ウェブアクセスしやすさに配慮したホームページの一層の充実 欲しい情報をいつでも、どこでも、誰でも、簡単に入手できる仕組みの整備
	全国共通事項	<p>子どもを取り巻く社会状況にかかわる脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国からの旅行者の増加によるパンデミックの脅威 子供たちへの感染症流行のリスク 食品偽装など食の安全性低下が学校給食への不信につながる懸念 ボール遊びの場が少ない 青少年を取り巻く社会状況の変化 課題を抱える青少年が自殺等にはやる心配 <p>家庭に潜む問題がもたらす脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭の教育環境の低下 保護者のモラルの低下 児童虐待の増加 <p>地域のつながり方の希薄化がもたらす脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながり方の変化 ボランティアの高齢化 <p>情報環境の変化にかかわる脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 書籍以外のデータ媒体が主流となった時の図書館の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい知識と予防方法等の情報提供 うがい、手洗いや等の衛生指導の徹底 医療機関との連携 給食食材の検査や市場の食品検査結果の確認の徹底 運動場や体育館の開放 ボール遊びのできる施設の設置 青少年相談体制の更なる充実 パソコン等のITを利用した家庭教育支援の充実 乳幼児だけでなく幅広い子育て世代への相談体制の確立 保育所・幼稚園と児童福祉施設、保健センターの連携体制の強化 子どもサポートチーム事業の拡充 地域住民のニーズをとらえた多様な活動機会を提供し、地域社会の再構築を促す 高齢者ボランティアの継続的な支援 新たなボランティア人材の養成と支援 電子書籍の貸出しサービス、館内での電子図書館閲覧サービス、端末の貸出し等の実施 		